



山村振興のキーポイント

地方自治病院における知識・経験・情報の蓄積

【多良木病院から学ぶ】



情報収集

学術面の向上は前向きに！

多良木病院の医師に対して、専門医取得・更新のため権威のある学会には積極的に参加できるように助成するなど、学術面におけるバックアップを積極的に行っている。

広報活動

実績と宣伝の相乗効果

ホームページが好印象であるといった要因から、入職希望者も少なくない状況にあるが、積極的な宣伝の前提には、確かな実績と信頼のある診療内容が必要である。

ネットワーク

視察や研究により ネットワーク構築

先進地の視察や研修会などを実施することで、効果的な取組の情報を収集し、関係者とのネットワークを築くことがへき地医療には欠かせない。

技術の向上

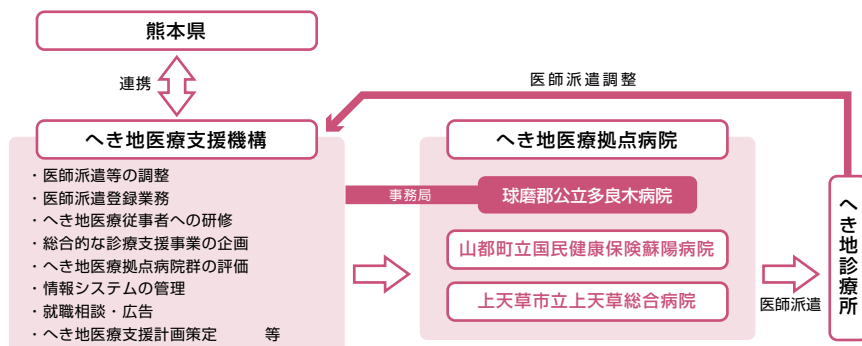
分野横断的なスキルアップ

医師の確保が困難となり、マンパワー不足が問題視されている地方の病院においては、各スタッフが専門以外の診療科も診断可能である状況を築くことが重要である。



活用した組織と制度

広域連携によるへき地医療対策



その人に聞く

医師の確保への ハード・ソフト両面の充実が重要

球磨郡公立多良木病院組合 院長 後藤平明 氏



地方では高齢化が進んでいる中、当院が管轄するへき地診療所の所在地区の高齢化率は実に50%を超えています。その中には町の中心部から車で30分近くかかる地区もあり、道が細く、車が通れないような場所もあります。

毎年3名の自治医科大卒業生が1年ないし2年任期で、県から当院に派遣されています。彼らは臨床指導医のもとで日常診療活動を行いながら、週の2日は当院管轄の山間にある2つのへき地診療所で、往診を含めた外来診察を行っています。昨今の医療制度の改革や医局民主化によって、若い医師が地方への勤務をあさりと拒否できる雰囲気醸成され、元来から問題視されていた地方自治病院における医師の確保がより深刻化してい

ます。この現状に対抗すべく、当院ではこれまで先端の医療ができるように医療機器の整備や設備投資もへき地病院としてはかなりの努力をしてきました。また、医師には学術面の向上において極力バックアップする体勢をとったり、ハード・ソフト面の基盤を整えています。

このように、様々な工夫と努力によってへき地病院として医師確保に尽力を費やしていますが、地方自治病院の立場として申し上げたいことは「医師の地方勤務義務化を進めるべきだ」ということです。地方には本来の医療行為の充実に精神を集中できるような行政の配慮が必要となっています。へき地医療への温かい理解と再考を望みます。



今後の課題・展望

へき地診療のネットワーク構築とNPOの設立

目標1

地域での 支援ネットワーク の構築

医師は日頃の診療をこなすことで毎日が精一杯であるため、医師を支援する保健師やヘルパーなどのマンパワーは必要であり、地域で高齢者を支援するネットワークを構築することが望まれる。

目標2

医療支援活動を行 うNPO組織等の 必要性

独居老人や、要介護世帯に対して、通院支援などの生活全般を支援するNPO組織等があれば、へき地医療の場で有効な取組となることが期待される。

目標3

総合診療医 育成システム の旗揚げ

へき地医療では、総合診療・日々の予防が重要である一方で、昨今の医療界では分業化・専門化が進展している。したがって、総合診療医の育成システムの旗揚げが求められる。

関連・関係する団体

熊本県へき地医療支援機構 〒868-0501 熊本県球磨郡多良木町多良木4210 Tel: 0966-42-2560